第１回安全・安心と暮らし専門分科会議事概要

１．日時

平成１９年２月２３日（金）９：３０～１２：００

２．場所

金沢市観光会館

３．出席委員（敬称略）

高山座長、石田委員、伊藤委員、奥寺委員、上村委員、川上委員、酒井委員、福井委員、松森委員、村島委員（計１０名）

４．議事（概要）

（１）開会

（２）挨拶

岡田北陸地方整備副局長

（３）委員紹介

（４）運営要領について

事務局から運営要領について説明

（５）座長挨拶

（６）資料説明

事務局から資料１、資料２について説明

（７）意見交換

（８）座長とりまとめ

（９）閉会

次回は、３月２０日（火）に金沢勤労者プラザで開催

５．主な発言内容

・災害の少ない北陸において、どう防災意識を高めるか。

・「安全」は「システム」、「安心」は「人や精神」。その両方のレベルアップに取り組み、人を集める。

・１０年後を考え、北陸はどのような豊かさを追求すべきか。それは経済的豊かさではないはす。

・北陸の各地域の個性を総和し、相乗させる広域的プロジェクトを立ち上げられるかが鍵。

・日本の砂防事業の半分が北陸で行われており、裏方が安全・安心を支えているという再認識が必要である。地域コミュニティがそれを認識し、ボトムアップで取り組みを推進していく体制づくりが必要。

・地域コミュニティ崩壊は、昭和３５年から大きな社会問題となっている。利便性に埋もれ

て生活に直接影響することはなかったが、阪神淡路大震災を契機に再認識されている。

・地域コミュニティ崩壊は市街地から中山間地へ進行し、自分たちで集落を守るパワーがなくなり、その結果として地域コミュニティ形成ができなくなっている。

・地域コミュニティの原点は、農業用水や農家集落である。今後、それらの維持が大いに不安。

・今後想定される首都圏直下型地震などの大規模な避難者を受け入れる体制を整える必要がある。そのためにも北陸新幹線の整備や日本海ルートの確保が必要である。

・並行在来線を含め、地域交通の充実を図るべき。

・ユニバーサルデザインを備えた高齢者や障害者が元気に活動でき、住みやすい地域を作るべき。

・ＩＴは情報や物流の広域化を促し、人の広域化も始まっており、広域の互助も可能となる。そのためにもインフラ整備が重要である。

・新幹線や高速道路ができても東京へ引き寄せられない求心力が必要である。

・東京、名古屋など外から見た時の視点で北陸をどういう地域にするか。北陸を目指す人やモノの「流れ」を作る。

・除雪ボランティアなどの人材育成の場やカリキュラムなどを作ることにより、豪雪時だけではなく平時にも来てもらうような交流人口を増やす取り組みも必要である。それが豪雪時の他地域への一時避難にも役立つ。

・行わなければならないことをまず行ってから「おいでまっし」と言う。

・我が国の食エネルギーの安全保障の弱さが指摘されるなか、北陸は内発的な循環構造や一次産業の２、３次産業化を推進できる素地を持っている。

・地域コミュニティを維持するためにもインターネットは地方・農村部を重点的に行う必要があるのではないか。ＨＰを立ち上げたり、ネットで注文を取れるようにしたい。

・ＣＳＲの取り組みも本格化しつつあるが、地域コミュニティ形成に企業のノウハウや経営資源をどう使うかも重要である。

・交通機関の発達で山や海といった自然の壁を乗り越え、外からはアクセスしやすい地域になりつつある。道路が外客誘致の道具としてうまく機能する仕組みを作って欲しい。

（速報のため、事後修正の可能性があります。）